

# 令和7年度 目黒区学童保育クラブの自己チェックシート

施設名: 三田学童保育クラブ

## <自己チェックの進め方>

- ①各施設単位で、運営の内容について確認します。
- ②各チェック項目について育成支援の記録を見ながら振り返ってください。
- ③その際、別紙「自己チェックリスト」にある『評価の着眼点』を目安にしてください。また、併せて「放課後児童クラブ運営指針解説書」も参考にしてください。なお、各チェック項目の設問は、運営指針の指針項目に基づいています。
- ④各チェック項目を振り返った結果は、以下の要領で「結果」欄に記入してください。  
例えば「○:できている(評価の着眼点の事項が全てできている)」「△:一部できている(評価の着眼点の事項が一部できている)」「×:できていない(評価の着眼点の事項がほとんどできていない)」といった三段階でドロッダウンリストから選択してください。なお、評価の対象に当てはまらない場合は、「-:該当しない(評価の対象に当てはまらない)」を選択してください。
- ⑤○、△、×すべての評価について、その結果に至った理由(なお、評価が△、×だった場合は改善に向けた対策案など)をコメント欄に必ず記入してください(100字以内)。職員間で評価結果や気づき、よりよい育成支援の視点等を共有する際に役立ちます。

## I 運営指針 総則、職員の資質向上、事業の対象となる子どもの発達に対応する項目

区 分	チェック項目	結果	コ メ ン ト
1 趣 旨	○「放課後児童クラブ運営指針」の趣旨を理解している。	○	「放課後児童クラブ運営指針」の趣旨に則り、放課後児童クラブに通う子どもと保護者の状況、地域の特性等の実態に応じて創意工夫を図り、質の向上と機能の充実に努めている。
2 放課後児童健全育成事業の役割	○放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の役割を理解している。	○	子どもの状況や発達段階を踏まえながら、「遊び等の活動拠点」としての機能と「生活の場」としての機能を果たせるよう努めている。また、「帰りの会」や「リクエストボックス」への投書等で子どもの意見を募る場を設けている。住区住民会議の方や児童館との連携も図っている。
3 放課後児童クラブにおける育成支援の基本	(1)放課後児童クラブにおける育成支援	○	子どもたちの生活や遊びの場として対応しい環境となるよう、学習時間や静養スペースを確保している。遊びの内容によって活動場所を変え、発達段階に配慮しながら、危険回避能力を高められるような活動を取り入れている。
	(2)保護者及び関係機関との連携	○	お迎え時や連絡帳等で保護者へ子どもの様子を伝えたり、年3回の保護者会や年2回の個人面談、親子交流会等で密に連携を図っている。小学校とは、定期的に共有する場を設け、育成支援に繋げている。
	(3)放課後児童支援員等の役割	○	支援員及び補助員は、研修やOJTを通じて必要となる技能や知識の習得に努めている。また、支援員が新たに得た知識や技能は、補助員に対しても共有を図っている。
	(4)放課後児童クラブの社会的責任	○	帰りの会、リクエストボックス、子ども面談等で子どもの意見を募る場を設けている。自治体や社内で研修に定期的に参加し、自己研鑽に努めている。また、日々の連絡帳やおたより、面談等を通して、育成支援の内容を保護者に伝えるよう心掛けている。
4 放課後児童クラブの社会的責任と職場倫理	(1)社会的責任・職場倫理	○	年に2回、職業倫理に反した言動、行動が無いかを確認する場を設け、職員同士で相互牽制することで、職業倫理の遵守がされるよう、育成支援の内容の向上に努めている。また、日々のミーティングにおいて、支援の向上について意見を取り交わす機会を設けている。
	(2)法令遵守のための組織的取組	○	研修やOJTを通じて育成支援の内容、職場環境、財政・事業運営を含めて法令遵守の必要性に組織的に取組み、職員一人ひとりの資質の向上と育成支援の充実に努めている。
5 要望及び苦情への対応	○子ども及び保護者からの要望や苦情に、迅速に対応する仕組みを整えて対応している。	○	「子ども会議」や「リクエストボックス」を活用し、子どもたちが意見や要望を発言できる場を設けている。保護者からも「意見箱」「アンケート」を活用し、迅速かつ丁寧に、誠意を持って対応し、自治体とも連携を取れる体制を整えている。要望や苦情があった際には、職員間で協議の上、連絡帳やお便り、保護者会等を通じて情報を発信している。
6 事業内容向上への取り組み	(1)職員集団のあり方	○	他の放課後児童クラブとの事例検討会に参加し、その内容を職員間で共有を図ることで、事業内容の向上に努めている。また、施設内でも日々のミーティング時において意見交換を行っている。
	(2)研修等	○	職場内外の様々な機会を捉えて資質の向上を図るための研修等の機会を充実させ積極的に放課後児童支援員に周知を図り参加を促している。
	(3)運営内容の評価と改善	○	令和元年度より運営主体が実施する利用者アンケートに加えて自己評価を導入することで事業内容の向上と改善を図ると共に、ウェブサイトでも結果を公表し各学童保育クラブがどのように取組んでいるかを明らかにしている。なお、第三者評価については、令和5年度に実施した。
7 子どもの発達理解	○放課後児童支援員等は、子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、育成支援を行っている。	○	日々の活動や遊びにおいて、年齢差や体力差を考慮しながら、安全に活動が行えるよう努めている。また、発達段階に応じて様々な遊びを行える様、道具・玩具を充実させている。

## II 運営指針 放課後児童クラブにおける育成支援の内容、学校及び地域との関係に対応する項目

区 分	チェック項目	結果	コ メ ン ト
8 育成支援の内容	(1)育成支援の内容	○	研修やOJTを通じて、育成支援の内容を理解し、子どもにとって安心できる生活の場の提供、その内容充実と、個々人の発達や養育環境に応じた支援を実施するように取り組んでいる。
	(2)育成支援の留意点	○	子どもが安心して自発的に通えるように、保護者との情報共有の徹底、子どもが主体的に物事に取り組める環境づくり、職員の研修・OJTの実施、アレルギー対応や災害時対応のマニュアル化とその徹底を実施している。
9 障害のある子どもへの対応	(1)障害のある子どもの受入れの考え方	○	研修やOJTを通じて、障害のある子どもの育成支援の内容と受入れ時の判断と手続きの方法について理解し、可能な限りの受入れに努めている。学校や、学校内の支援学級の教師とも連携を図り、適切な配慮に努めている。また、安心して生活が送れるためのニーズをくみ取るために、保護者と連携を取りながら環境整備を行っている。
	(2)障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点	○	研修やOJTを通じて、育成支援の内容、留意点を理解している。事例検討会にも参加し、より育成支援への理解を深めている。心理士等を招いて実態に則した支援への助言をもらい、実践している。
10 特に配慮を必要とする子どもへの対応	(1)児童虐待への対応	○	研修やOJTを通じて、児童虐待の早期発見、報告の努力義務があることを理解し、保護者の不適切な養育や児童虐待が疑われる場合には、区や運営主体との協議の上、関連機関と連携する体制が整っている。
	(2)特別の支援を必要とする子どもへの対応	○	普段のお迎え時や個人面談等での保護者との交流、子どもの話等を通じて、特別な支援が必要と判断した場合には、区や運営主体との協議の上、関連機関と連携する体制が整っている。
	(3)特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たっての留意事項	○	コンプライアンス研修を通じて、プライバシーの保護、秘密保持に該当する項目について理解している。特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たっても、常に個人情報に留意しながら実施している。
11 保護者との連携	(1)保護者との連絡	○	出欠席については、事前にスケジュールを提出してもらっている。また、連絡帳や迎え時、電話連絡、個人面談、保護者会、親子行事、おたよりを通し、放課後児童クラブでの遊びや生活の様子について情報を共有している。
	(2)保護者からの相談への対応	○	個人面談や迎え時、電話連絡などを通し、日常的にコミュニケーションを取り、相談しやすい雰囲気作りを心掛けている。
	(3)保護者及び保護者組織との連携	○	保護者懇談会、親子交流会を開催し、保護者同士の交流に繋がるよう努めている。

12	育成支援に含まれる職務内容と運営に関わる業務	(1)育成支援に含まれる職務内容	○育成支援に係る職務を実施している。	○	保育計画と活動計画表を作成し、入所説明会や保護者会において、保護者に内容共有を行っている。また日々の日誌を作成し、職員ミーティングで内容を共有している。保護者へは月に1度おたよりで同時に情報発信している。
		(2)運営に関わる業務	○運営に関わる業務を実施している。	○	日誌の作成、始業時ミーティングの実施、おやつ発注・購入、環境整備・衛生管理、保護者との連絡調整、電話・おたよりを通じた学校との連絡調整、住区センターとの連絡調整、会計監査、全て実施している。
13	学校との連携	(1)学校との連携	○情報交換や情報共有、学校施設の利用等、学校との連携を図っている。	○	日常的に子どもについての情報の共有、交換を行っている。また、ランランひろばの参加を通して学校施設を利用している。
		(2)学校との連携におけるプライバシーの保護	○学校との連携にあたって、個人情報や秘密保持について予め取り決めている。	○	おたよりによる情報共有については、取り決めが行われている。その他のやり取りでの取り決めは、都度行っている。
14	保育所、幼稚園等との連携		○情報交換や情報共有等、保育所・幼稚園等との連携を図っている。	△	配慮を要する児童においては、保育園等に見学に行き、先生との情報共有を行い、連携に努めている。子どもや職員同士の交流は図れていないため、交流の機会を設けられるように検討中。
15	地域、関係機関との連携		○地域組織や子どもに関わる関係機関等との連携を図っている。	○	青少年委員との地域行事に関する情報共有や、住区センターとの合同訓練などを通して地域組織との連携を図っている。
16	学校、児童館を活用して実施する放課後児童クラブ	(1)学校施設を活用して実施する放課後児童クラブ	○学校施設を活用して放課後児童クラブを実施する上での留意事項を理解し、適切に対応している。	—	
		(2)児童館を活用して実施する放課後児童クラブ	○児童館を活用して放課後児童クラブを実施する上での留意事項を理解し、適切に対応している。	—	

### Ⅲ 運営指針 施設及び設備、衛生管理及び安全対策に対応する項目

区 分		チェック項目		結果	コ メ ン ト
17	衛生管理及び安全対策	(1)衛生管理	○日常の衛生管理を適切に行うとともに、感染症の発生時における対応方針を予め定めている。	○	適宜うがい手洗いを促して、感染予防に努めている。必要な医薬品については、月1回点検を行っている。また、おやつはマニュアルに沿って衛生管理に留意しながら作成・提供をしている。
		(2)事故やケガの防止と対応	○事故やケガを防止するための対策を講じるとともに、事故やケガの発生時における対応方針を予め定めている。	○	施設内外の環境については毎日点検日誌を用い、点検を行うとともに、行事の際は必ず職員が下見を行っている。事故やケガ、おやつ提供時の事故等の防止、発生時の対応について、研修を受けている。
		(3)防災及び防犯対策	○防災や防犯に備えた対策・訓練等を日ごろから行っており、災害等の発生時における対応方針を予め定めている。	○	災害時のマニュアルを作成し、月1回避難訓練を行っている。また、施設内の他の機関とともに防災訓練と防犯訓練は毎年行っている。保護者に向けては、災害伝言ダイヤルを活用して情報提供を行っている。
		(4)来所及び帰宅時の安全確保	○関係者と連携して、来所及び帰宅時の子どもの安全を確保している。	○	入所時に、保護者から帰宅時のルートを提出してもらい、来所および帰宅ルートの危険箇所について確認している。また、保護者や学校と下校時刻の共有を行っている。

### Ⅳ 運営指針 施設及び設備、衛生管理及び安全対策、放課後児童クラブの運営に対応する項目

区 分		チェック項目		結果	コ メ ン ト
18	施設及び設備	(1)施設	○放課後児童クラブとして求められる機能を備えた施設(専用区画)を有している。	○	専用区画の子ども1人当たりの面積、事務作業等のスペースを確保している。室内のレイアウトや装飾は、子どもの動きや行事により工夫に努めている。また、近隣の公園で外遊びや児童館イベントの参加をしている。
		(2)設備、備品等	○放課後児童クラブとして求められる機能を満たすための設備や備品等を有している。	○	ロッカーや備品を備え、子どもの様子に応じて玩具の購入や図書貸出し利用をしている。
19	職員体制	(1)職員配置	○支援の単位ごとに2人以上の放課後児童支援員等を置いている。	○	常に放課後児童支援員2人以上(そのうち補助員1人)を置いている。
		(2)育成支援の実施	○支援の単位ごとに育成支援を行っている。	○	定員15名の為、支援の単位1として運営を行っている。
		(3)放課後児童支援員の雇用形態	○放課後児童支援員を長期的に安定した形態で雇用している。	○	放課後児童支援員が長期にわたって安心して就業できるよう、処遇改善や労働環境の整備に努めている。
		(4)勤務時間	○放課後児童支援員等の勤務時間を、開所時間の前後に必要な時間前として設定している。	○	子どもの受け入れ準備、打合せ、育成支援の日誌作成、清掃、片付け、配布物等の作成、事務処理等を含め開所時間の前後に準備時間を設けるよう努めている。
20	子ども集団の規模(支援の単位)		○適切な子ども数の規模の範囲(おおむね40人以下)で運営している。	○	現在定員15人、在籍15人で運営している。
21	開所時間及び開所日		○開所時間及び開所日を適切に設定している。	○	開所時間は8:00～19:00とし、開所日は年間290日程度となっている。
22	利用開始等に関わる留意事項		○利用開始や退所に関わる留意事項を理解し、適切に対応している。	○	区として作成した利用案内を窓口、各施設等で配布し、併せて区のウェブサイトでも公開している。また、利用開始にあたっては、各施設ごとに説明会を開催し、入所案内を配布し、利用及び退所時の説明を行っている。
23	運営主体	(1)運営主体の要件	○安定した経営基盤と運営体制を有し、子どもの健全育成や地域の実情についての理解を十分に有する主体が、放課後児童クラブを運営している。	○	放課後児童クラブの運営は、育成支援の継続性という観点から、子どもの福祉について理解し、安定した経営基盤と運営体制を有する主体が安定的・継続的に担っている。また、地域の実情についても理解をしている。
		(2)運営上の留意事項	○放課後児童クラブの運営主体は、設備運営基準に定められた運営上の留意事項を理解し、運営している。	○	放課後児童クラブの運営主体の留意点6項目について理解し運営に努めている。
24	労働環境整備		○放課後児童クラブの運営主体は、放課後児童支援員等の労働環境を適切に整備している。	○	労働基準法に基づく就業規則に則り、適切な労働環境となるよう努めている。また、健康診断の定期実施や、労災保険を含む各種社会保険に加入し、安心して働ける環境づくりが行われている。
25	適正な会計管理及び情報公開	(1)会計管理	○放課後児童クラブの運営主体は、適正な会計管理を行っている。	○	放課後児童クラブの公益性に照らし、保育料徴収の手続きや管理及び執行を適正に行い、執行状況報告について監査等を行い適正な会計管理に努めている。
		(2)情報公開	○放課後児童クラブの運営主体は、会計処理や運営状況について情報公開している。	○	事業内容や財務及び収支の状況について情報公開し、保護者や地域社会に対する説明責任を果たすよう努めている。